

# たね通信

No. 20 2014年  
発行 地域生活ケアセンター  
小さなたね  
【医療法人にのさかクリニック】



小さなたねの物語が描かれたスタンドグラス (ガラスアート TAKAMI 製作・寄贈)

朝夕の過ごしやすさと共に、秋の訪れを感じさせてくれる今日この頃です。季節の移り変わりが当たり前ではなく、何だかとても愛おしくてありがたい気持ちにさせられるのは、今季の夏が、すつきりとしらないジメジメとした毎日であったせいなのかもしれません。

日中での日照期間の短さや長雨の影響により、野菜などの生産に大きな影響を与えていると言われています。私たち人間にとってもまた、そんな自然の中に生きている者として、身体や精神に少なからず影響を受けているとも言われます。しかし、日常生活では具体的にそれぞれがどんな影響を引き起こしているのか、「どうも最近疲れやすい」「眠りが浅く、すぐに目が覚めてしまう」などなど、野菜などと違って症状が複雑なだけに、その判断や対応も難しいものです。病院で検査を受け、適切な診断がされることも限りません。

夏は入道雲とガラガラとしたお日様が照り付け

## 自然の営みの中で

所長 水野 英尚

ることが当たり前だと考えていましたが、いつの間にもやらその自然界が狂い出し、ズレが生じてきているようです。そして、そんな自然界の営みは、当然私たち自身にも狂いやズレを来すのだと、あらためて考えさせられます。

地球温暖化というような世界的な課題は、普段の生活の中で特に気に留めることなく過ごしていても、いざ自分たちの食卓の問題や、自身の体の不調となれば、嫌でも実感として捉えるものです。遅ればせながら、自らのライフスタイルを見つめ直す。時。になっています。



グリーンコープさんの助成金によりカーポート設置

## たねナースのつぶやき

我が家には、私子どもたちを呼んで抱っこする。抱っここの時間。があります。この間、長女(4歳)を呼んで抱っこしている時、妹のきい(2歳)がじやまにきました。すると……

長女「きいちゃん、ママと一緒にいっつも、たね。に行ってるでしょ！ あっち行ってー」

長女の想いに複雑な気持ちになりつつ、結局3人でギューっとする毎日なのでした。(羽太)



## 後記

息子(中1、脳性麻痺)は食事が全介助。言葉で空腹を伝えることもできない。夏休み中、息子と部屋で過ごすうち、ふと何時間も何も飲ませていないことに気付いてハッとなる…ということが何度かあった。慌てて口に寄せた牛乳を、息子は勢良く飲み干した。ほっとすると同時に襲う罪悪感。私が口に運ばないと水の一滴も飲めない、その責任の重さに恐ろしくなる。こんな私が親でいいんですか！とどこかに訴えたいくなる時もある。いけませんいけません、秋の風にでも吹かれましょう。(E)



医療法人にのさかクリニック  
地域生活ケアセンター 小さなたね

〒814-0172 福岡市早良区梅林6-23-3  
電話 092-874-3051 FAX 092-874-3052  
E-mail: chisanatanetane@tune.ocn.jp  
ブログ: <http://chisanatanetane.blog.ocn.ne.jp/blog/>

## 人間となる

重い障がいのある方たちは、筋力の低下や筋緊張、痙攣発作などにより、「側弯」(脊柱が湾曲すること)などの身体の変形が大きくあります。完全オーダーメイドの椅子(座位保持)や移動のための車椅子(パギー)などによって、日常生活での姿勢が保たれています。自らで動くことの出来ない方たちにとって、それは快適に過ごすための道具ですが、当事者の体にフィットして初めてそれは道具としての価値が生まれるものなのです。万が一身体に合っていない場合、それを使用することは不快以外の何物でもありません。そのようなことを防ぐために、セラピストによる日々のリハビリと、椅子・車椅子の点検は欠かせないものです。

ところが、そのような機関(病院や療育センターなど)や、セラピスト(理学療法士など)も不足しているのが現状です。毎日使用するものであるのに、それがきちんと点検されていないとなれば、身体の変形をさらに強化進行させてしまったり、数時間それに座らされ続けることは、「拷問」とも言える状況です。言葉を発する

ことの出来ない彼(女)たちにとって、その状況がどういうことであるのか、周囲にいる私たちは、その気づきと対応が求められています。

その時々の中で、「呼吸状態はどうか?」「脈は安定しているか?」「圧迫されている所はないか?」等々、その姿勢の状態を見て、考えられることをイメージし、不具合を発見したらすぐ対処するスキルを身に付けることは、支援する上で重要なことです。専門機関が不足しセラピストに見てもらえる機会が少ないならば、私たち自身が学び、体得することで、重い障がいのある当事者たちの、心地良い日常生活へ近づくことが出来るのではないのでしょうか。

相手の状況を見て適切なアプローチをしていくということは、言葉で言うほど簡単なことではありません。言



葉での要求があれば、それに応えていくということと、互いの関係性は成立しますが、言葉でのコミュニケーションが多いと思います。もちろん、鼻腔チューブや胃ろうからの食事提供や、排せつ時のオムツ交換というケアは、仮にそれが支援者による一方通行であっても、ケア自体は成立しますから、そこでトラブルが起こることはありませんが、大切なことは互いの関係性をどこまで感じ取って、ケアの中に取り入れることができるのかという事です。自らのケアを振り返りながら、今一度考えてみたいと思います。そして、そこからさらに心地良さに向けた適切なアプローチができるよう、スキルを身に付けていくことが必要だということです。

最近、認知症ケアの新しい技法として「ユマニチュード」(知覚・感情・言語による包括的コミュニケーション)というケアのあり方が注目されています。これはフランス語「ネグリチュー

ド」に起源をもち、植民地に住む黒人が「黒人らしさ」を取り戻す活動を踏まえて、「人間らしくある」「ユマニチュード」と命名されたといえます(「ユマニチュード入門」医学書院参照)。年を重ねて様々な機能が低下すれば、他者に依存しながら生きていかなければなりません。しかし、最期の日まで尊厳をもって生活し、「人間らしく」あり続けるためには、「あなたのことを、私は大切に思っています」というメッセージを常に発信し続けることだと語られます。

「ユマニチュードの理念は絆です。人間は相手がいなければ存在できません。あなたがわたしに対して人として尊重した態度をとる、人として尊重して話しかけてくれることによって、わたしは人間となるのです」(前掲書より)

私たちの日々のケアに対して、大きな示唆を与える言葉です。人が人をケアするということにより、「人間となる」のなら、私たちは重い障がいのある彼(女)たちと共に、互いに「人間」とさせてもらいたいと思います。



心地よく。過ごせているかな?



# さわら地域チャリティ「ひろば」 のご案内

※これまでの「さわら地域チャリティ・イベント」の名称を変更しました。

## 10月19日（日）11：30～15：00

※雨天の場合は中止（11月9日に延期します）

コンサート広場：11：30～

丸福運送さんの駐車場

※にのさかクリニックすぐ近く



バザー広場：13：00～15：00

にのさかクリニック駐車場

福岡市早良区野芥 4-19-34

Tel.092-872-1136

この秋も恒例のチャリティ・イベントを開催します。  
提供品等の販売収入は、東日本大震災の被災者支援、  
バングラデシュの教育・医療・生活向上の支援、バ  
ングラデシュ看護学校建設の支援に使わせていた  
きます。ご協力、よろしくお願いします。



「計画相談支援」を  
有効に活用するために

すでに利用が始まっている「計画相談支援」ですが、何故そのようなものが必用であるのか、すでに障がい福祉サービスを  
より封書で送られてきたけど、あれ何ですか……？」との声が多いような気がしています。

今後は障がい福祉サービスを利用する全ての人に必須とされるこの支援ですが、支援を提供する人も、受ける人も、「何を目的としているのか」という理念をしっかりと把握していなければ、無駄な時間とお金だけが費やされるものになってしまいます。

まず、計画相談で最も大切にしなければならぬことは、「エンパワメント」（当事者が持っている力を引き出す）と「アドボカシ」（権利擁護）の2つだと言

われます。ですから、障がい福祉サービスを  
受けることによって、いかにその2  
つが確保されていくのかどうか、その  
計画書に盛り込まれていなければなら  
ないのです。

これからこの支援を有効なものとして  
いくためには、計画を立案していく者は  
もちろんのこと、当事者や家族も、「障  
害」によって社会の中でのあらゆる制限  
や抑圧から自由にさせられていく原動力  
として活用されていくことを、心から望  
みます。



## 『ユマニチュード入門』



本田美和子 著  
イヴ・ジネスト 著  
ロゼット・マレスコッテイ 著  
(医学書院、本体2000円+税)

見る・話す・触れる・立つ…人が人をケアするとき、「常識」とされることでありますが、ケアの対象者が「認知症」などのコミュニケーションが難しいとされる人となると、ケアの「常識」を見失ってしまいます。どんな状態であっても、人として接することの大切さを教えてくれます。

## 本の紹介

## カーポート設置助成 ありがとうございました!

ホントに  
助かります!



グリーンコープ生協さんの福祉活動組合基金による助成を頂きまして、カーポートを設置しました。これまで、雨の日の車の乗り降りで濡れてしまい困っていましたが、これで快適に乗り降りができます。心より感謝いたします!!

書けと言われて  
書いています

## たねのスタコラ

ツブ ム

## 夫婦で始めたこと



3月に娘が他界し、夫婦ふたりの生活になりました。テレビを観ては「このCM、なっちゃんが好きだったな……」、図書館へ行けば「シーンとした静かななかで聞こえてきたおじさんのくしゃみに、なっちゃん笑ってたな……」、十五夜お月様を見ては「去年なっちゃんと一緒に見たな……」と、なにをしても、どこへ行っても、娘の顔を思い出します。

こんな感じではありますが、元気に過ごしております。夫婦ふたりになってから始めたことがあります。山登りです。最初に登った山は飯盛山(西区、382m、山頂まで約1時間)でした。低い山ですが、傾斜が急で、楽しむと言うより「必死」で登りました。お陰様で、山頂からの眺めは最高!でした。

次に登った立石山(糸島市、209m、山頂まで約40分)では、山頂で吹いたケーナ(南米民族楽器の竹笛)の音色に、コンドル…ならぬトンビが数羽接近して来ました。

午前中に登って降りて来るくらいの低い山を専門にし、叶岳、高祖山(西区)にも登りました。次はどの山に登ろうかな。



妻のお気に入り山マンガ

鈴木ともこ 著  
『山登りはじめました』  
(メディアファクトリー)



立石山からの眺め

高橋 健一 (介護職)